

通告6番目、14番、増田浩二議員、発言席から一問一答方式で質問をお願いいたします。

増田浩二議員。

○増田議員 14番、増田浩二、議長の許可を得ましたので一般質問を行います。

この3月議会では、JR西日本の駅のコンパクト化計画についてと農家や事業所の所得向上施策、市の特産品についての2点質問を行います。市民生活の向上施策として、この岩出市政に反映していただきたいと考えます。当局の誠意ある対応を求めるものです。

まず、JR西日本による和歌山線における対応面をお聞きします。JR西日本は、この間、駅舎のシンプル化を方針に、駅舎設備の更新を打ち出し、和歌山線においては、布施屋駅、田井ノ瀬駅の改修とともに、旧駅舎の撤去、ホームの屋根の撤去、トイレまで撤去される、こういうことまで行われてきました。そのために布施屋近くの方からは、トイレを借りに来られて困っている、駅周辺に排せつ物があるなど、ゆゆしき事態が生じてきています。ホームに屋根がないため、ずぶぬれ状態で電車に乗らなければならない、改善要望も出てきている状況となってきています。JR西日本に対しては、和歌山県内の自治体からも各種の改善要望が出てきています。岩出市としても、和歌山線の利用客や活性化のための施策が求められているのではありませんか。

同時に、駅のコンパクト化計画によって、岩出から東側地域においても、将来、住民が困る状況が生まれるのではないかと危惧する声があります。この視点に立って質問を行います。

まず1点目として、JR西日本の駅のコンパクト化計画における岩出市としての認識はどのようにお持ちなのか、市の見解をお聞きをします。

2点目として、先ほども言いましたが、和歌山線において、布施屋駅、田井ノ瀬駅で駅舎の撤去やトイレなどの撤去が行われて、住民に大きな影響が生まれてきています。岩出市から東側の区間における駅のコンパクト化計画の内容、これはどうなっているのか。岩出市として計画内容を把握しているのかどうか、お聞きをします。

3点目として、和歌山線の活性化のためにつくられた組織として、和歌山線活性化検討委員会がありますが、駅のコンパクト化計画に対して議論や協議、検討、こういうものは行われてきているのかどうか。駅のコンパクト化に対してのこの間の協議について、お聞きをします。

4点目として、現在、船戸駅のトイレは男女共用となっておりますが、JR西日本に対して改善の要望を上げていただきたい。男女共用の状況を岩出市としてどのように感じているのか、市の見解と今後の対応をお聞きをします。

5点目は、岩出駅における上りホームにおいてベンチの増設の改善要望、これをJR西日本に上げていただきたい。現在、ベンチは階段の下に3席だけあります。他の自治体の方からベンチがないので設置してほしいと言われましたが、設置場所も気がつきにくく、分かりにくいところに設置されています。このような中、僅か3席では数が少なく、改善してほしいという声があります。エレベーター付近などに何とか工夫を凝らして増設できないのか、ぜひJR西日本に声を上げていただきたい。

以上の5点について質問を行います。

○田中議長 ただいまの1番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○木村総務部長 増田議員のご質問にお答えいたします。

まず1点目、駅のコンパクト化計画の岩出市の認識についてですが、JR西日本からは労働力不足や自然災害への対応を見据えると、従来どおりの設備維持等が困難となる得る状況にあるため、老朽化した駅設備を撤去、またはシンプルで強靱な駅設備にするなど、将来の環境変化にも対応できる駅設備の整備を目指す必要があるため、コンパクト化を行っているとのことです。

市といたしましては、将来にわたり持続可能な鉄道を構築するためには致し方ないものと考えております。

2点目の岩出市から東側区間における駅のコンパクト化の計画内容についてですが、現時点では、橋本市にある隅田駅が施工中であり、その他の駅については、現時点では実施時期は未定とのことです。なお、岩出駅は対象外とのことをございます。

3点目の和歌山線活性化検討委員会で、駅のコンパクト化に対して議論や協議、検討は行われてきたのかについてですが、和歌山線活性化検討委員会では、和歌山線沿線の自治体などが一体となり、地域振興の観点から、和歌山線を活性化させる方策について調査検討するところであり、活性化のために利用促進の事業を行っております。駅の改良工事であるコンパクト化については、JR西日本から個別に関係自治体に説明等を実施しており、委員会で議論は行っておりません。

4点目の船戸駅のトイレの改善要望についてですが、JR西日本からは、基本的

に駅のコンパクト化に併せて、トイレは撤去を行う予定とのことでございます。

5点目の岩出駅の上りホームベンチ増設の要望についてですが、駅を改修した当初はベンチがなかったが、要望により現在のベンチを設置したとのことでございます。これ以上の設置は、スペースがないことから設置は難しいと聞いてございます。

○田中議長 再質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 駅のコンパクト化計画、現実的には今の時点では、隅田駅というような話が出ました。その後の答弁の中で、船戸の駅のトイレですね、これは撤去する予定だというようなこともお話がありました。この点について、じゃあ岩出市として、撤去されるということに対して、どのような見解を持っておられるのでしょうか。やっぱり駅のトイレというものは、やはりなくなるというのは困るというような状況が生まれるのではないのでしょうか。

先ほど和歌山線の田井ノ瀬、布施屋駅かな、布施屋の方のことなんかも言わせてもらいましたけれども、やっぱり同じような状況、こういうのが生まれてくる。こういう状況が懸念されるのではないのでしょうか。この点では市としてどのように考えているのか。その点、再度お聞きを、今後の対応ですね、どうお考えなのかという点、これをお聞きをしたいと思います。

それと、和歌山線の活性化検討委員会、このお話もありましたけれども、そこでは一切議論していないんだというお話でございました。じゃあ、私、この組織というのが、今これだけ和歌山区間をはじめとして、岩出から東側の区間、いろんな形で変えられようとしてきている中で、実際にはJRが取り組んできているという、このことに対して、実際には和歌山線そのもの自身は活性化になっているのかという、むしろ逆に後退化しているのではないかというふうに思うんです。当然、そういう点でいうと、やはりこの和歌山線の在り方について、どうなのかというのは、この組織でしっかりとやっぱり議論していただく、このことが私は本当に大事なのかなというふうに思うんです。

こういう点では、今、個別にJRのほうからしてきているんだということを言われましたけど、そういう点では、市として変えられようとしていることに対して、やっぱり和歌山線の区間の沿線自治体の皆さんと力を合わせて、それこそ和歌山線を存続していく、また今後、さらに活性化させていく、そういう取組こそ求められていると私は思うんです。そういう点では、そういうところのこの検討委員会で、今後も一切そういうことなんかは検討されないということなんではないのでしょうか。この点

をお聞きをしたいと思います。

それと、先ほど上りのホームのところなんですが、JRのほうに、何かエレベーターのあの辺のところなんかには造っていただくという、そういうことを本当にスペースがないということをおられたんやけども、その辺のところ、何とか座るところを再度考えていってほしいなというふうに私は思うんですよ。

本当にそういうものが取れないかどうかということも併せて、岩出市も再度、岩出の駅なんかも再度調査していただいて、この辺のところへ造ってもらえないかなというふうなことを再度言っていただくということなんかはできないんでしょうか。このことをちょっとお聞きをしたいというふうに思います。

それと、実際に、先ほどもトイレの話ちょっと言うたんやけど、トイレの点だけについては、これ単に撤去されるというだけじゃなしに、市として、本当にきっちりと考えていただきたいというふうに思いますんで、よろしくお願ひしたいと思います。

以上です。

○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○木村総務部長 増田議員の再質問について、お答えいたします。

まずは船戸駅のトイレの撤去の件につきましてですが、駅のトイレの改修については、本来、それを所有する鉄道事業者が駅の利用状況やコストの観点などを勘案し行うものであると考えていることが、まず第一でございます。

次に、活性化検討委員会での取組ですかね、議論する必要があるということですが、これにつきましては、いわゆる駅のコンパクト化はJR西日本が将来にわたり持続可能な鉄道を構築するために、新設化を実施するものであります。駅の利用者数やコストの観点からも致し方ないものと考えてございます。市といたしましては、沿線自治体と引き続き和歌山活性化に取り組んでまいりたいと考えてございます。

3点目といたしまして、岩出駅ですね、上りホームのJRのエレベーター付近等にベンチの設置ということでございます。これにつきましては、私自身、先日、この岩出駅、見に行かせていただいて、そこにいらっしゃった駅員さんにもお話は聞いてございます。その中で、まずは場所、設置の場所が難しいというお話を聞いてございますので、これについてはJRでの判断になってございますので、そこは難しいものであると考えてございます。

最後のトイレの撤去については、市としては、先ほどのお答えしたとおりでござ

います。

○田中議長 再々質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 船戸のトイレなんですが、先ほどの話では、既成事実だというような考えで、それに対して、市は何も対応はしないんだというような感じを受けます。しかし、今、JRの紀勢線ですね、ここなんかでは、和歌山県内の56の駅のうち、駅前の公園に自治体が多目的トイレを設置するとか、またJR以外が設置、管理、こういうふうになっているトイレが6割以上占めているんですね。その自治体が自治体の責任として、やはり住民に不便をかけないという、トイレなんか絶対必要だという形で、自治体がこれを設置し、管理していつている、こういうところがあるんですね。

岩出市として、こういうような公共トイレ、これが撤去されて、住民は一切困らないんだという考えに私は立っていただきたくない。これはどうしても必要だ、そういう立場に立って、岩出市でトイレを設置していく、こういうことが要るんじゃないでしょうか。

今日の新聞で、和歌山県内にも外国の観光客、これが今本当に増えてきているんだということ、今日の新聞に載っています。そういう点でいうと、外国から来られたそういう方なんか、船戸駅に降りて、これは困ったなというふうを感じる、そういうふうになるのではないのでしょうか。まして、船戸というのは、岩出市長のお膝元です。私、この間、3代の林町長、中村町長、そして中芝町長、3人の町長、市長と、この間、対峙してきた。林町長なんかは、少なくとも自分の地域なんかにも目を配っていく、そして地域の住民の人に困らないよう、そしてそれこそ住んでいてよかったと言われるようなことをされてこられたと思うんです。中村町長が、同じように、私は、されてきたと思います。

市長、自分の住んでいる船戸の駅ですよ。この船戸の駅、改善しよう、こういう考えすらないですか。まして、住民が困っている、そういうような状況なんです。少なくとも市としてトイレを新しくしていく、こういうことを考えないのかどうか、最後にお聞きをしたいと思います。

○田中議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

副市長。

○佐伯副市長 増田議員の再々質問にお答えします。

船戸駅のトイレの使用ということでございますけど、先ほど総務部長が答弁した

とおり、この駅については、JR事業者が所有するものでございます。JRにおいても、それぞれ駅の利用状況、それからコスト面等、そういうふうなところを総合的に勘案して考えてないというところでございますので、市としても、その考えに同調しているところでございます。

○田中議長　これで、増田浩二議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いします。

増田浩二議員。

○増田議員　次に、農家や市内事業所の所得向上の支援策について質問をします。

新型コロナの影響下のもと、道の駅などに出品する方の支援策、市内業者の売上げを伸ばすための一助として、郵送料を負担して、農業関係者や市内業者の販路拡大につなげている自治体があります。岩出市も郵送料無料などの制度実施で、農家や事業所の所得向上の支援策を行ってはどうかという点が、まず1点目です。

2点目として、岩出市として農家や市内業者の所得向上施策に関して、種々これまでも検討や調査研究も行われてきたと考えますが、橋本市で行っている郵送料無料化に関して、補助制度について市の認識をお聞きしたいと思います。これまで岩出市、このような視点に立った調査や研究は行われてきたのかどうか、お聞きをしたいと思います。

3点目として、これまで市の特産品の点では、林町長時代から種々議論が研究もされてきましたが、なかなかうまくいかなかった、こういう経緯もあります。最近では、和歌山大学の協力も得て、研究開発も行われてきていますが、市民には分かりにくい状況であり、市としての方向性も見えてきていないと感じている、こういう市民も多くいます。現時点において、これまでどのような調査や研究が行われ、どこまで成果があり、実用化への課題はどうなっているのか。市の取組と今後の対応をお聞きをしたいと思います。

4点目として、ふるさと納税者に対する返礼品について、市の特産品の返礼品目を考えていく上で、希望されている品目はどのような品が喜ばれているのか。今後において、こんな品物を希望しますというような声はないのでしょうか。特産品の開発に役立てることも大切だと考えますが、市の考えをお聞きをしたいと思います。

5点目として、この間、観光事業にも生かしていく取組を進めていくと言われ続けてきました。観光客誘致や所得向上対策、新規製品の開発の芽、こういうものは生まれてきているのかどうか。

以上、5つの点について質問をします。

○田中議長 ただいまの２番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○田村事業部長 増田議員ご質問の２番目、農家や事業所の所得向上施策、市の特産品についての１点目と２点目を一括してお答えいたします。

現在、岩出市が設置している道の駅は、根来さくらの里とねごろ歴史の丘の２つの道の駅がありますが、両施設とも行政の効率化と公共サービスの質的向上の観点から、指定管理者制度を活用しています。議員ご指摘の配送サービスについては、現在もご利用いただけますが、無料で提供するかどうかは指定管理者の運用などで検討するものであり、市が支援策を行うことは、現在のところ考えておりません。

送料無料の事業を実施しています橋本市へ聞き取りを行ったところ、対象としている産品は、主に柿であるとのことです。柿は季節の果物として、橋本ブランドの高級品として贈答品などにもご利用されており、直売所からの地方発送やインターネットを通じた通信販売などの配送がよく利用されている産品であります。

一方で、岩出市では、ねごろ大唐、なばな、クレソンのほか、白菜、キャベツ、大根などの農産物が中心であり、商品の価格より送料が上回る場合もあり得ますので、無料サービスにはそぐわないと思います。

次に３点目、現時点の市の特産品の取組と今後の対応は、についてですが、特産品についての取組としては、ねごろ大唐、なばな、クレソンの作付に対して、市奨励作物栽培補助金、また生産に必要な設備に対して、ねごろ大唐生産促進補助金を活用して普及促進を行っています。

次に４点目、ふるさと納税の返礼品についてですが、蜂蜜、和歌山ラーメン、イチゴ、日本酒、あられなどがよく利用されています。今後は熊野牛や果物、梅干しなどの県内共通返礼品を取り扱う市内事業所を募り、商品の発掘とともに、寄附返礼事業の利用促進を図ります。

次に５点目、観光客誘致や所得向上対策、新規産品の開発の芽は、についてですが、観光事業におきましては、岩出市産品のお土産物として、黒あわび茸、あられ、日本酒、甘酒、根来塗があります。また、道の駅ねごろ歴史の丘では、根来寺をイメージしたオリジナル商品として、ねごろ天井花絵クッキーやうすかわまんじゅう、紀州五色バウムなどの菓子類のお土産を開発し、令和２年より販売しています。今後も農家や事業所の取得向上のために取り組んでまいります。

○田中議長 再質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 今、いろいろお答えをいただきました。岩出市にはすぐわないんだというようなことでした。今、橋本市では、郵送料という部分の補助金、これについては橋本ふるさと便事業補助金、私もこの交付要綱を持っているんですが、ここでうたわれているのは、第1条として、新型コロナウイルス感染症の影響により、橋本の農業関係者が経済的に深刻な状況にあることを受けて実施しているんだと。そして、市の農産物加工品をPRすることで、農業関係者の所得向上及び販路拡大を図ることを目的とする。こういうふうに書かれています。

もう1つあるんですね。橋本市農産物等インターネット販売促進事業補助金交付要綱、この第1条には、新型コロナウイルス感染症の影響により、経済的に深刻な状況であることを受けて、農業関係者の所得向上及び市で栽培された農産物等の販路拡大を図ることを目的とする。こういうふうなインターネット販売促進補助事業というふうなものなんかも併せて行われているんですね。

今、この岩出市で、じゃあ苦しんでおられる農家の方や事業者の方、この方の所得向上を図っていく。そういうための施策、こういうことが、私は岩出市でもやっぱり求められていると思うんですね。地域地域で合ったそういう援助支援策ですね、それが必要だと思うんです。じゃあ、岩出市でそういう制度が合わないというのであれば、岩出市でそういう農業関係者や事業者の方、この所得向上を上げていく、そういう対応策が、岩出市独自のもので、またやっぱり要ると思うんですね。

先ほど、私、郵送料というやつで言いましたけれども、それで駄目だということであれば、橋本市のようなインターネット販売、そういうところで事業者さんの支援策、同時に、事業者さんへ出す、農家の方なんかも支援をしていく、そういう新たなやっぱり施策というものが、私は岩出市で要るんじゃないかというふうに思うんですが、こういったインターネット販売というふうな形の部分での支援策、こういう点については、市としてどのように捉えているんでしょうか。

また、市として、農家の方や事業者さんなんかは、どのような支援策、これを取っていかうとされているのか、この点について、再度お聞きをしたいと思います。

○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○田村事業部長 増田議員の再質問にお答えいたします。

先ほども私が答弁させていただきましたが、橋本市では、主に柿でございます。その所得向上と販路拡大ということは私どもも承知してございます。

本市につきましては、送料を無料にして行っていく、配送していくまでの品物に



つきましては、全然まだございませんので、インターネット販売とか支援策というのは考えてございません。

○田中議長 再々質問を許します。

増田浩二議員。

○増田議員 考えないということを言われました。岩出市は岩出市でそういう方に対しての支援策、これなぜ考えないんですか。先ほどもふるさと納税に関しての返礼品、こういうものなんかも岩出市独自でいろんな形でされてきているわけでしょう。だから、そういうものを販売されているという方について、実際には、先ほど言ったインターネット促進販売というようなやり方なんかもやっぱり考えてやっていく。そういうことなんかも、私は岩出としての対応策、これやっぱり考えていくべきだと私は思うんですね。

実際に、この3月議会で、残念ながら、市長、副市長、教育長、給料上げていく。こういうことも行われてきました。その理由とされたのが、住民ニーズに応じていく。そのために給料上げる必要があるんだ、こういう説明でした。それならしっかりと岩出市民の生活、暮らし、これを守っていく、支援していく、いろんなことをやっぱり考えていくべきだと思うんです。それが責務じゃないんですか。

そういう点でいうと、担当部局に、岩出市として、いろんな先ほどのふるさと便じゃないけども、それ以外にいろんなやり方、そういうものが全国各地であると思うんです。やってるとこいっぱいあると思うんです。そういうのをね、執行部の人に対して、それこそ市長、副市長が、しっかりおまえら研究せえ、勉強せえ。そういうことをやっぱりきちんと指導して、そして岩出市民の生活を守っていく、こういうことをやるべきじゃないんですか。

そういう点では、担当部局に対して、岩出市としてどういうふうな研究調査、これやれ、そういうことを言う気はないんですか。少なくとも私はそういう責務がある、そういうふうに思います。この点について、最後に市の対応の考え方、そういう点について再度お聞きをしたいと思います。

市長が答えられないんだったら、副市長でも結構です。こういうときになったら市長答えへんからね。少なくとも、市長、副市長、答えていただきたい。どんな指導をしていくのか、この点、最後にお聞きをしたいと思います。

○田中議長 ただいまの再々質問に対する市当局の答弁を求めます。

副市長。

○佐伯副市長 増田議員の再々質問にお答えいたします。

先ほどから議論がありますように、橋本市は柿というふうなことでございます。岩出市では、先ほども答弁の中にありましたように、ねごろ大唐であったりとか、なばな、クレソン、そういうふうな農作物を特産品として奨励しているわけです。しかしながら、岩出市は都市化が進んでおりまして、なかなかもうちょっと農業者の作付面積が少ない、こういうふうな状況にある中で、なかなか特産品を市の特産として、大々的に数量を確保するには至ってません。そのようなことを含めて、担当部局にはしっかりと、それぞれの特産品をさらに販路拡大、生産拡大、それから別の新たな産品をとということで、指示をしているわけでございます。

それから、支援何もしてないと、こういうふうなことですけども、それは違うと思います。私考えるには、根来さくらの里、ありますよね。あれは生産者がここへ出せるようにつくったシステムでございますので、支援の仕方はいろいろあると思いますけど、そういうふうな形で支援しておりますので、決して農産物生産者に対する支援はしてないと、こういうことには当たらないと思いますので、どうかその辺のところご理解いただいて、よろしく願いいたします。

○田中議長　これで、増田浩二議員の2番目の質問を終わります。

以上で、増田浩二議員の一般質問を終わります。